



1 七宝焼アートヴィレッジ

尾張七宝焼の歴史や、製造道具を展示している。七宝焼の製作過程を見学でき、体験ゾーンもある。敷地内に広い芝生広場があり、「勇健」健脚コースのスタート、ゴール地点であり、「コース1 おまつコース」のスタート、ゴール地点でもある。



サトザクラの緑地

懸水路北道路沿に緑地があり、4月中旬から2週間近く開花し、ウォーキングコースから眺められる。



2 神明社

戦国時代の郷主であった林常信により、招請され、その後犬養義久等が天照大神、及び白鬚大明神を祀ったのが始まりと云われている。木陰が多くあり、暑い季節のウォーキングではよい休憩場所となる。



3 甚目寺観音（鳳凰山甚目寺）

推古天皇期（597年）に伊勢の甚目龍麿という漁師が海中より観音を網にかけ、近くに祀ったと伝えられている。尾張四観音の一つで、南大門、東門、三重塔は国の重要文化財である。12か所の諸堂めぐりができる。



4 飛行場開拓記念碑

太平洋戦争末期に作られた陸軍の飛行場（清洲飛行場）の開拓記念碑。当時の飛行場は、面積約2.2km²、滑走路は幅60m、長さが1,600mあり、「屠龍戦闘機」「飛燕戦闘機」「五式戦闘機」が配備されていた。開拓記念碑は、甚目寺公民館駐車場西北角にある。



5 新屋神社

物部氏の一族新屋連（むらじ）が、大和の国より、尾張に移り住み、新屋郷の屯倉（みやけ）に物部氏が尊ぶ祖神を祀ったのが起源という。現在は新屋連の総鎮守となっている。「勇健」健脚コースのほぼ中間地点となる。



6 糸里制遺構

奈良時代末から平安時代初期に定めた糸里制の遺構の地割が残っている。古道、富塚、木折、沖之島の地区で富塚が一番、集落を中心に周りを田畑で囲み、6町×6町（654m×654m）の正方形が正確に残っていたが、現在は変形して5町×6町に至っている。糸里制遺構の中を歩きます。



7 リバーサイドガーデン

金岩の蟹江川左岸に「ふるさとづくり事業」資金を基に設置された。幅18m、長さ350mの広さで、数多くの品種の高木、中木、低木が繁っている。ガーデン内の遊歩道を歩きます。



サザンカの緑地



モミジの緑地

幅14m、長さ230mの中低木を主とした緑地である。北端にモニュメント、「田圃植物園ここに始まる」の碑があり散策できる遊歩道がある。



甚目寺観音周辺の道路は交通量が多いので注意が必要